

令和4年度「学校評価結果報告書」

学校法人 三宝学園
三宝幼稚園

当園ではこの度、令和4年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この評価の結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

当園は、仏教の知性と慈愛のもとに、幼児に良き教育環境を与え、明るく、のびのびと楽しい体験を通じて、社会に生命を生かす、自主的精神に充ちた心身共に、健やかな人間完成をめざし、仏の心として愛育助長したいと念うものです。

1. 元気なつよい子ども
幼児の心身の調和的な発達を図り、健全な心身の基礎を養う
2. きまりを守れる子ども
基本的、生活習慣と正しい社会的態度を育成し、豊かな情操を養い、道徳的芽生えをつちかう
3. のびのびとした創造性豊かな子ども
のびのびとした表現活動を通じて、創造性を豊かにする

II. 今年度の重点目標

- 教職員の資質向上
- 安全管理体制の充実
- 保護者への発信
- 長時間保育の検討

III. 評価項目と取組み状況

評価項目	取組み内容	取組み状況
1 教職員の資質向上	オンライン研修が増え「実体験」が少ない状況下での学びを創意工夫し、子どもたちへの声かけや保育の流れに取り入れて、日常保育に活かしていく。	C 研修の機会は少なかったが、園での公開保育の際に意見交換を実施したり、子どもたちそれぞれに合わせた声かけを実施する事ができた。
2 安全管理体制の充実	安全な園生活を提供するため、点検項目の見直しを行い定期点検を引き続き励行していく。	B 安全性を考慮してクラスの机や椅子の交換を行った。また園バスにおいて、乗降確認を複数人で実施する事で、安全面の配慮をする事ができた。その他、ヒヤリハットの共有の実施も行った。
3	緊急時のマニュアル等を再確認のうえ整備し、地域との連携を図った訓練を試みていく。加えて消防署等の実地訓練や不審者対応訓練も実施していく。	B 避難訓練を毎月実施する事ができており、事前にマニュアルを職員に配布する事で細かい事前確認等ができていく。さらに訓練後は反省会を実施し、次の訓練に向けて活用ができていく。

令和4年度「学校評価結果報告書」

学校法人 三宝学園
三宝幼稚園

評価項目		取組み内容	取組み状況	
4	保護者への発信	保護者の共通理解を得ていくため、園の法人やねらい等を分かりやすく伝えることを常に心掛けていく。	B	アプリ、SNSやHP上で日々の保育の様子や連絡事項について発信する事ができている。また、行事は紙で、緊急事項はアプリで、といった使い分けもできている。さらに令和4年度からは写真販売のサービスを実施する等、保護者に園の様子が見えるようになってきている。
5	長時間保育の検討	人員確保等の職員負担軽減をはかりつつ、保護者ニーズに応え、保護者の安心感につながる、子どもを預けやすい環境を提供していく。	C	人員が増加したことや、シフト制や業務の軽減を図りつつ、長期休業日の預かりを実施する事ができた。

【評価の基準】

S	十分達成されている
A	達成されている
B	取組まれているが、成果が十分でない
C	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	教職員の資質向上	研修自体が少ない事に加えて、長期的に取り組みを実施しているものの、実体験が少なく、学びが常態化している事から、研修を機会を設け、新たな学びや創意工夫により子どもたちの主体性を養う取り組みが必要である。
2	安全管理体制の充実	机や椅子の交換は一部のクラスの実施のみにとどまっている為、他のクラスでの実施も必要。また、ヒヤリハットの共有が進んでおらず、危機管理に対する意識向上の機会や、定期的な安全点検の実施が必要である。
3		保護者や地域と共同した訓練や、不審者に対する訓練ができていない。令和5年度は機会を作ってそうした訓練や、緊急時の引き渡し訓練等を積極的に実施したい。
4	保護者への発信	アプリ上で通知が確認できなかったり、資料の統一性が見られず混乱するようなケースが見られる為、改善が必要である。また園の方針やねらいを伝えていく取り組みが必要である。
5	長時間保育の検討	預かり保育担当の配置の都合上、長時間実施ができない。保護者のニーズに対応するべき、長期休業／預かり／早朝について時間を増やしたいが、教職員の負担をふまえ、話し合いながら決めていく必要がある。

V. 学校関係者の評価

教職員の資質向上について

教職員は子どもたちの教育のために研修に励み、その実践している事が感じられる。日々変化する幼児教育の現場に対応するための姿勢が必要な中で、研修機会の減少を違う形で補おうとする努力も見受けられる。

安全管理体制の充実について

消毒や清掃をしっかりと行う事ができている。また、園バスでの乗降確認を複数人で実施する等、子どもたちが安心・安全に過ごせる環境があり、通園バスでの事故等について園内の危険管理意識の高さが伺える。

保護者への発信について

アプリ、SNSやHPで子どもたちの様子を確認する事ができたり、写真の購入ができる機会が増える等、満足度の高い発信がなされている。重要な連絡事項もアプリを通じて連絡を受ける事ができ、こうしたツールの活用とその充実に努めている事が確認できる。

長時間保育の検討について

働く保護者の事を考慮し、早朝保育・延長保育の時間延長や長期休暇中の預かりを増やす等、努力が見受けられる。保護者からのニーズも高まる中、謙虚な姿勢で、厳しく自己評価し、真摯に対応する姿勢がある。

以上